

自主創造

2019年11月11日

第7号

校長 根路銘 敢

学校教育目標

- 「生きる力」の育成
- 「頭」を鍛える
- 「心」を鍛える
- 「体」を鍛える

実りの秋に 読書の秋

心一つに歌声響く 合唱コンクール

朝夕の寒暖差で肌寒さを感じる季節になりました。先月の日曜参観には、多数の保護者ご家族の皆様にご来校いただき、お子様が授業に取り組む姿をご覧になられたことと思います。また、お昼のバザーでは、多くの皆様にご利用いただき、誠にありがとうございました。さらには、これまでバザーに向けた準備、当日の運営に当たられた保護者及びマシーン会の皆様方には大変お世話になりました。心から感謝とお

礼を申し上げます。さて、灯火親しむ読書の秋を迎えておられます。中国・唐代の文人である韓愈（かんゆ）が残した詩の中に「燈火親しむべし」という一説があり、「秋の夜は涼しさが気持ち良く、あかり（灯光）で読書するには最適である」という意味です。この言葉が、読書の秋の由来になっているようです。

近年、生活環境の変化や様々なメディアの発達・普及などを背景として、国民の「読書離れ」「活字離れ」が指摘されています。子どもたちの周りにもテレビやゲームなど、楽しい遊びがたくさんあり、パソコンやスマートフォンで簡単に電子情報が手に入るので、「読書離れ」がおきても不思議なことではありません。しかし、電子情報がこんなにあふれている時代に、それでもまだ1冊の本を手取る意味は何でしょうか？よい書籍、その中にはひとつの大きな世界観があり、この世界がいったいどのようなも



のなのかを、全力で私たちに伝えてくれる気がします。本の世界は私たちの心に静かに定着し、考える土台をつくっていきつてくれます。読書は知識を蓄え、感覚を磨き、考える力を

養うだけでなく、視野を広げ、想像力を鍛えます。本を読む意味は、そこにあると思います。子どもたちの読書意欲を高めるには、例えば、大人が読書してモデルを示す、適切かつ妥当な本を紹介する、名作と学習の関連だけに限定しないで広く読ませるなど、本との出会いを演出して、読書機会の拡大と目的を持たせる工夫、さらに、何にもましてまわりの大人が読書好きになることだと思います。

本校では、学級で朝の読書活動を実施しているほか、図書委員会による、お薦めの図書紹介や図書委員による読み聞かせを行っています。

（※今年度は、各学年で「はごろも伝説」の読み聞かせを行いました。）また、本校生一人あたりの読書冊数は、10月

25日現在31冊となっており、宜野湾市子ども読書推進計画による目標冊数（年間35冊）を大幅に上回ることが予想され、日頃から読書に親しんでいる生徒が多いことが窺（うかが）えます。

「届け 僕たちの思い！ 響け 大切な仲間 七色の歌声♪」

11月8日（金）コンベンションセンターにおいて本校全生徒・全職員が参加し、合唱コンクールを開催しました。各学年、各学級とも10月から音楽の時間や学活の時間等を活用して合唱練習を行ってきました。

生徒それぞれが、学級の集団の中で全員が一体となってハーモニー（調和）を作り上げ、学級の団結を強め、明るい学級づくりを進めていく目的で実施されました。そこで、この学校行事をとおして、各学級の生徒の友情や絆がさらに深まったと思います。

参観下さいました保護者及びご家族の皆様には感謝申し上げます。ありがとうございました。



2年6組



3年1組

の質と量の充実及び読書時間の確保に努め、読書活動を推進していきます。各ご家庭におかれましても、夜長になるこの時期に、読書の大切さについて、ご家族でお話ししてほしいと思います。